

読売

# 教育ネットワーク

社会はまるごと学校——  
すべての大人が先生です



仙台二高の生徒たちが新日鉄住金の本社を訪問。様々な製品の見本などが並べられた机に生徒たちが集まった（詳細は4・5面）

巻頭特集

第66回 高円宮杯 英語弁論大会

## 上位3人が英国研修 2・3

学校×企業

仙台二高×三菱商事、新日鉄住金

## 社会で働く意味 考える機会に 4・5

レポート

新聞の読み方研修 6 教員の免許更新講習 7  
手作りの新聞できた! 8 福島で特別授業 竜王戦を読む 9  
夏休み親子新聞教室 10 リレーエッセー 11

2015.9

Vol.8

第66回高円宮杯

英語弁論大会

# 上位3人が英国研修

昨年12月の第66回高円宮杯全日本中学校英語弁論大会で1~3位に入賞した3人が、7月28日から8月11日の日程で、英・イーストサセックス州にあるバックスマア・プランプトン・カレッジで英語の特訓プログラムを終えた。3人はプログラム終了後、読売新聞欧州総局、三菱商事ロンドン・オフィスを訪れ、大英博物館見学後に帰路に着き、8月14日帰国した。「とても有意義な体験だった」と3人は研修を振り返っていた。

吉村わかば・日本学生協会 (JNSA) 基金運営委員長



三菱商事のロンドン・オフィスで同社のスタッフと鈴木健斗君(右から3人目)、中嶋勇太君(同4人目)、尾島百合子さん(同5人目)、吉村わかばさん(左から2人目)

## 2週間「有意義な体験」

この研修は、英語弁論大会に協賛している三菱商事からの副賞として毎年行われており、今回は、広島学院高校(広島市)

1年の鈴木健斗君(16)、栄光学園高校(神奈川県鎌倉市)1年の中嶋勇太君(16)、金城学院高校(名古屋市中区)1年の尾島百合子さん(15)の3人が参加した。

3人は、フランスや中国など世界各地から集まった約50人の9歳から17歳の若者たちと合宿生活を送りながら、教室での英語の授業のほか、博物館や近郊の街巡り、ボウリング大会といった課外活動を通じて本場の英語に触れ、仲間たちとの親睦を深めた。

主なプログラムは、午前中はクラスに分かれて語彙や文法など英語の学習、午後はスポーツやゲームなどのアクティビティで、週末はカンタベリーやロンドンで課外活動に励んだ。また、海やプールに行ったり、キャンプファイアをしたり

と、イギリスの夏を楽しんだ。

●鈴木君  
「文化や歴史も学べた」

鈴木君は、「英語だけでなく、英国の文化や歴史も学べる質の高い授業だった」と感銘を受けた様子。英語の勉強の仕方一つとっても、ただプリントと向き合うのではなく、ゲームを通して学んだり、クラスメイトと意見を出し合ったりと、いろいろなアプローチの仕方があることを学んだという。さらに、様々な国の若者と交流する中で、英語をツールの一つと捉えるようになり、さらに英語以外の外国語に対する関心も強く持つようになったという。

●中嶋君  
「自然になじむ」ができた

中嶋君は、当初は初めて会う人々と英語で過ごすことにとっても不安を感じていたという。しかし、午前中のクラスを中心に心を開ける友達を見つけること

ができた。勉強面でもアクティビティ面でも様々な経験をすることができ、有意義な2週間だったと振り返り、「英語しか通じない環境だったが、クイズ形式の授業やレクリエーションは楽しく、自然になじむことができた」と強調した。

●尾島さん  
「親しい友人ができた」

一方、2020年東京五輪・パラリンピックで通訳のボランティアになることを目標に英語学習に励んでいる、という尾島

さんは、「外国人のクラスメイトが積極的に発言する姿に、いい刺激を受けた」と言い、2週間の研修では、積極的に英語で話しかけるうちに親しい友人ができ、別れてからも連絡を取り合うほどの仲になった、とうれしそだった。

2週間のバックスマア・プランプトン・カレッジでの研修後、3人はロンドンで、読売新聞ロンドン支局、三菱商事ロンドン・オフィスを訪問、三菱商事が後援している大英博物館の常

設展示「日本ギャラリー」などを見て回った。2週間の授業のあとのロンドンでの経験は、自分たちの英語力を試す機会ともなった。英国は日本と同じ島国でありながら、日本よりも多様な人種が住んでいて、あらゆるところで様々な言語が飛び交っており、国際化が進んでいることを感じたという。

●三菱商事、  
読売新聞の支局も訪問

三菱商事のロンドン・オフィスでは、欧州・アフリカの事業を統括しているという商社の仕事に関心を深めたようで、欧州三菱商事の環境・CSR推進部マネジャー、ジェイムズ・ゴムさんに「入社後、三菱商事のロンドンで働くためには、どうしたらいいか」と質問。ゴムさん

研修後、ロンドン市内で観光を楽しむ3人



週末に、クラスメートたちとバッキンガム宮殿を訪れた



ているのは日本だけ、などという説明に熱心に聞き入っていた。同時に、展示を見て、日本の歴史や文化に関する知識がまだまだ足りないことも痛感したという。

3人とも異口同音に「あと1週間はここにいたい」と、ロンドンを立ち去りがたい様子だったが、帰国後は英語だけでなく、世界史や他国の文化、そして自国への理解も深めたいと力強く話していた。

日本学生協会 (JNSA) 基金

### 70年近い歴史 高円宮杯を支え

高円宮杯全日本中学校英語弁論大会出場経験者など東京および東京近郊の大学生約60人によって構成されている任意団体。英語弁論大会をはじめとする諸行事の企画・運営を主な活動としており、本部と事務局は読売新聞東京本社内にある。

基金の前身の日本学生協会は終戦直後の1946年に設立され、70年近い歴史を誇る。現在は「21世紀の日本を担う国際性豊かな青少年を育てるために、国際語である英語を全国の学生、生徒に熟達させる事業を行うとともに、広くその普及を図り、日本文化の発展ならびに国際親善に寄与すること」(JNSA基金定款第3条より)を理念としている。

基金の出身者に、天野之弥(あまの・ゆきや)国際原子力機関(IAEA)事務局長のほか、有村治子女性活躍相、服部幸應(ゆきお)服部学園理事長ら。

今回、吉村わかばさんは、昨年度の英語弁論大会上位3人の引率者として英国研修に同行した。

Japan National Student Association Fund



仙台二高 × 三菱商事、新日鉄住金

# 社会で働く意味 考える機会に

## 新日鉄住金

一方、新日鉄住金本社には1、2年生77人が訪問。まず総務部広報センターの藤原知佐子さんが、素材メーカーとして鉄鉱石を主原料に高度な技術で高性能の鉄鋼製品を作っている、と同社の概要を説明。その後、営業部門から佐藤千秋さん、技術部門から黒澤辰昭さん、それに総務部広報センターから吉住剛さんの4人がそれぞれの部門の話、自らの高校時代のエピソードを交えながら、話した。

**自動車用鋼管、法務、新商品開発、広報……**  
現在、主に自動車用鋼管の営



法務の仕事の説明する仙台二高OBの千葉さん

佐藤、千葉、黒澤さんはいずれも仙台二高OBとあって、生徒たちは熱心に耳を傾けていた。最後に登場した吉住剛さんは、広報の仕事についての説明

「会話の技術より伝える中身を」  
この後、講師の4人にディレクトフォースの向坂勝之、藤村峯一、長崎文康さんを加えた計7人が、生徒たちの六つの班に参加して、「今取り組んでいることが、将来仕事にどう活かしているのか」をテーマにグループディスカッションを行った。

**グローバル化を実感**  
引率した仙台二高の若林春日教諭はこの企業研修を振り返り、「生徒たちになぜ学ばなければいけないのかを考えさせたり、大学の先にある目標を意識させたりすることができ、とても有意義な機会だった」と手ごたえを感じているようだった。

### 一般社団法人ディレクトフォース

2002年に上場企業の役員経験者らが、企業での様々な経験や培った知見を今一度社会に役立てよう、との趣旨で設立。中小企業・ベンチャー企業支援、教育・環境などの分野で社会貢献事業を行っている、会員600人の組織。教育分野においては、実践的な大学講義、講演を行っているほか、小中高生向けに、理科実験やキャリア教育の出前授業を実施している。

<http://www.directforce.org/index.html>

## 三菱商事

三菱商事には1、2年生73人の生徒が訪問。会社の概要や具体的な仕事の内容について、若手社員の話に聞き入った後、8グループに分かれ、社員と同社OBのディレクトフォース会員とディスカッションを行った。

**サーモン養殖、アルミ精錬、東日本大震災復興支援……**

環境・CSR推進部の寺島吉昭さんがスクリーンに映した組織図を示しながら、「三菱商事は、地球環境・インフラ事業、新産業金融事業、エネルギー事業、金属、機械、化学品、生活産業の7グループにビジネスサービス部門を加えた体制で幅

**「価値観、常識の違いを認識、尊重して」**  
この後、既に登場した若手社員4人と、三菱商事OBでディレクトフォース会員の4人の計8人が生徒たちの八つのグループに一人ずつ参加してディスカッションが行われた。OBの4人は、いずれも海外経験が豊富な熊谷春水、田部揆一郎、小林健、白方純さん。

最後に仙台二高の各グループの代表がこの日の感想や意見を披露。その一人、奈良樹さんは「海外に出て人と接するときは、一人ひとり考え方が違うというのを胸に刻んで、自分を客観的に見ていくことが大事だと思った」と話していた。



三菱商事OBとのディスカッションの後、感想を発表する仙台二高生

広い産業を事業領域としている総合商社」と会社の概要を説明。貿易のみならず、パートナーとともに、世界中の現場で開発や生産・製造などの役割も担っており、国内及び海外約90か国に200以上の拠点をもち、600社を超える連結対象会社と提携してビジネスを展開していることを説明。「連結対象会社の従業員は約7万2000人に上り、三菱商事単体の約5600人の12倍以上に相当する」という話に生徒たちの間から、小さな驚きの声も漏れた。

さらに、環境・CSR推進部復興支援チームの木目田健二さんが、同社の社会貢献の大きな柱、東日本大震災の復興支援活動を紹介。延べ3700人へのぼるボランティア派遣、自治体やNPO団体などへの支援・助成、産業復興・雇用創出などの活動を説明すると、震災県・宮城の高校生生徒だけに、真剣な表情で聞き入っていた。

もう一つのテーマ「高校時代に培う力」をめぐる討議では、生徒たちから語学力の向上のほか、「コミュニケーション能力」「団結力や強い意志」などの声が上がりましたが、社員やOBは「失敗を恐れず、何事にも挑戦してほしい」とエールを送った。



東京駅から三菱商事、新日鉄住金本社に向かう

## 読売新聞×トヨタアドミニスタ社

## 企業人のスキルアップに

## 新聞の読み方研修

新聞を活用することで社会人、企業人としての力を高めてもらおうと、教育ネットワーク事務局は7月29日、東京・芝浦のトヨタアドミニスタ株式会社で研修を行った。若手社員たちが、新聞の効率的な読み方や、紙面の情報を取捨選択して上司への報告書を作成する方法などを体験した。



入社2・3年目の若手社員に新聞の構成を解説する和田浩二専門委員

報をつかみ取る読み方を伝えていく。

## 記事を使って報告書作り

記事を使った報告書作りがこの日のまとめとなった。大手家電量販店が複数の店舗を閉鎖し、都市型店舗に注力するという記事を素材にした。受講者を2グループに分け、片方は全国展開のライバル量販店の広報部員、もう一方は茨城県内で展開する家電店の社員で、どちらも上司に報告するという設定。

それぞれがメインタイトルをつけ、報告ポイントを三つに絞り込む。全国展開グループは「4期連続減益」を報告の筆頭に置いたが、「この記事の書き方では、減益は既報。上司はもう知っているし、閉鎖要因の一つにすぎないので、ほかの情報を入れたいですね」と和田講師。他方、「県内6店舗閉鎖」をメインにした茨城グループには、「具体的に県内のどの店舗かを書けばもっとよかった」と紙面の閉鎖店舗一覧表を指し、新聞はグラフや表を多用して、詳細な情報が確認しやすいとつけ加えた。

読み手の立場や目的によって関心は異なるため、相手が欲しい情報が何かを考えることは、新聞取材の基本でもある。重要

なことを冒頭に手際よくまとめるのも記事の常道。新聞を通じて、こうしたスキルを身につけて、報告書や企画・提案書の作成に役立ててほしいと話した。

受講生たちは、今後半年にわたって、継続的に新聞活用を学んでいく予定だ。

## 「情報の取り方わかった」

「新聞は就職活動時にピンポイントで読んだだけ」と明かす受講生もいたが、意識は変化したようだ。鮫島亮太さんは「新聞の構成や読み方を気にしたことはなかった。これからは時間をかけずに読めそう」、村山加恵さんは「好きな分野のニュースだけチェックしがちだった。今日、経済記事もそれほど難しくないとわかった」と話す。伊藤淳さんは「新聞からの情報の取り方がわかった」、荒井義弘さんは「様々な分野の面白そうな記事が載っていて、読み込みやすくなった」と振り返った。

今回の研修を企画した総務部人材開発グループの三枝宏至担当課長（56）は、「本社では2年目の社員でも役員にプレゼンテーションする機会がある。ふだん接する機会のない新聞記者からいろいろな話を聞き、表現力や文章力を磨いてほしいと考えた」と話していた。

紙面構成を知って  
短時間で情報入手

「G・J・O」太眉の流行まで、幅広い内容が載っていることを実感してもらおう。

続いて、紙面のレイアウトや記事の構成について、実際の新聞を手にもってもらいながら解説した。紙面のどの位置に記事があるか、見出しの大小などでニュースの重要度を示しているという指摘を、受講生たちがページをめくって確認する。多様な記事を一覧できるという新聞の特徴を生かし、短時間で情



「まわしよみ新聞」で完成した作品を各グループが紹介した



見出しを考えるグループワークも行われた

News

DVD

文章の書き方、情報の分析、  
整理方法、発信の仕方……

## 「読売新聞の記者講師派遣」完成

企業に向けて、読売新聞がどのような研修ができるかを映像で説明するDVD「読売新聞の記者講師派遣」が完成しました。関心を持たれた社内研修の担当者などに配布して活用していただこうと考えています。

読売新聞はこれまで、企業からの依頼に応じて、記者が専門分野についての講演を行ってききましたが、近年は「新入社員が新聞を読んでいる」「読み方を知らない」といった声が企業側から寄せられ、社会人に向けた研修の要望が強まっていました。

DVDの作成は、こうした声にこたえたもので、新聞の活用法ばかりでなく、文章の書き方、情報の分析や整理の方法、訴求力のある発信の仕方など、新聞取材や編集の中で長年培ってきたスキルから、仕事に役立つ内容を伝えられるような研修を準備しています。

DVDには、大阪発のメディア遊び「まわしよみ新聞」で、楽しくグループディスカッションをしながら、社会への関心やプレゼン力を高めていく様子や、情報収集の重要性、メディアの特色を教える講義の一部が収録されています。長さは約12分間。

問い合わせは、教育ネットワーク事務局(☎03・3217・1966)へ。



まわしよみ新聞や  
ワークシート作り

# 教員の免許更新講習

玉川大学が開講する教員免許状更新講習「新聞で育む『言語力・人間力』」が8月10、11日、読売新聞東京本社と玉川大学を会場に行われ、首都圏の小中高校の教員35人が参加した。

現職の教員は、教員免許状の更新のため、10年ごとに30時間の更新講習を受ける必要がある。1日目は東京・大手町の読売新聞東京本社で、2日目は京都府田市の玉川大学で行われ

た。同大の今年度の教員免許状更新講習は、21の講習が設けられ、391人が応募。それぞれが希望の講習を選択受講した。読売新聞社が請け負ったのはそのうちのひとつで、今回が初の試

みとなった。

1日目は、同大教師教育リサーチセンター非常勤講師も務める鹿野川喜代美・読売新聞NIE企画デザイナーが、新聞活用の効果や実践例などを紹介。学校でのスマートフォンの問題を取材している読売新聞編集局教育部記者や元台北特派員らが講義に立ったほか、読売新聞社の見学ツアーが実施された。

講義では、記者の仕事に疑似体験する記事執筆の演習も行われ、講師を務めた記者が「直すところのない完全原稿」と称賛する記事を書き上げた教員もいて、会場を沸かせていた。

### 「早速2学期から取り組みたい」

2日目は、グループワーク中心の講義となった。「まわしよみ新聞」では、当日の朝刊から各人が面白いと思った記事を選り、プレゼンテーションを通して、グループでひとつの新聞にまとめた。

また、新聞記事を使用した教材「ワークシート」作成の指導も行われるなど、教育現場に持ち帰って実践してもらえる内容が盛り込まれた。報道写真が新聞に掲載されるまでの流れや、連日、ライブル新聞と激しい競争を繰り広げる写真部記者の日常を伝える講義もあり、参加した教員からは、「新聞を教材にという視点が足りなかったと実感した」「役に立つ楽しい講義だった」「早速2学期から取り組んでいきたい」などの感想が寄せられた。

「ここはどういう意味？ わかりやすく書き直して」「写真がピンぼけだ。撮り直し！」「見出しを早く。もう締め切りだよ」――。

8月12日、東京・日比谷の東京国際フォーラムで開催された「丸の内キッズジャンボリー2015」で、読売教育ネットワーク主催のワークショップ「丸の内キッズジャンボリー新聞社」が行われた。参加したのは小学5年生から中学1年生までの9組計11人。

会場の一角に設けられた編集部には、パソコン数台と大型プリンターが持ち込まれ、子ども記者と指導役の読売新聞記者が真剣にやり取りする様は、本物の編集現場さながら。午後3時過ぎ、プリンターから最初の大きな紙が刷り出されると、記者の小学6年生・梶田明子さんは目を輝かせて自分の紙面に見入っていた。

### 取材、撮影、記事・見出しの作成……

このワークショップでは、ま

ずプロ記者（教育ネットワーク事務局の石田汗太専門委員）が「取材の心得」講義をした後、子ども記者がイベント会場を取材し、写真を撮り、記事を執筆し、見出しを考え、活字で組んだ新聞を完成させるといふもの。半日たらずで一人が一枚ずつ新聞を作るため、子ども側も、

指導する記者側も相当にハードな作業となるが、それだけに校了時の感激はひとしお。9枚の紙面は会期の14日まで会場に掲示され、来場者の注目を集めていた。

梶田さんの父、武彦さんは「こんなに子どもが集中して取り組むワークショップはほかにない。学校でも取り入れてほしい。新聞社も大変だと思いますが、こういった企画はぜひ続けてほしい」と話していた。



出来た新聞を披露

丸の内キッズ  
ジャンボリー  
東京国際  
フォーラム



手作りの新聞は会場に掲示された

## 手作りの新聞できた!

世界でただ一枚の「自分だけの新聞」を作ろうという子ども向けワークショップが8月の3日間、都内の2つのイベント会場で行われた。完成紙面は「読売新聞」のロゴが入った本格的なもの。参加した子ども記者も、サポートしたプロ記者も、汗まみれになって「校了」を目指した。

本紙記者が指導

子ども新聞社  
科学技術館

また、11日と18日には東京・北の丸公園の科学技術館でも同様のワークショップが行われた。同月30日まで開催された夏休み特別展「くらしの技術」50年大・展望展」を取材し、計15人の子どもが「自分だけの新聞」を作り上げた。



取材後は執筆と印刷



科学技術館で大・展望展を取材する子ども記者



# 福島で特別授業 竜王戦を読む

読売新聞の将棋欄と1面コラム「編集手帳」を題材にした特別授業「竜王戦を読む」が8月8日、福島市の福島民友新聞社で開かれた。福島、山形両県の小学生と保護者ら42人が集まり、将棋と新聞の魅力を学んだ。

この催しは、初代竜王で日本将棋連盟常務理事の島朗九段が、活字文化の重要性を伝えたいと企画し、福島民友新聞社の協力で実現した。将棋や囲碁の対局の様様を再現する観戦記は、昭和初期から読売新聞の名物連載として好評を得ており、「観戦記文学」とも称されている。

九段は観戦記を読み上げ、「戦っている雰囲気がよく伝わってきます」と、読み物としても面白いと解説。「将棋欄の指し手を最後まで読んで、(翌日の新聞に掲載される)次の一手を考えるのは有効な上達法。社会人になっても役立つはず」と語った。さらに「パソコンやスマホは便利ですが、すべてをそれに頼らず、



将棋の観戦記をもとに「考える力」の重要性を強調する島九段



飯塚祐紀七段(左)の指導対局



島九段から修了証を受け取る参加者

## 「観戦記から考える力を」

授業は2時間行われた。1時間目で講師を務めた島

活字を読み取る力、考える力を身につけてほしい」と子どもたちに呼びかけた。

## 「子どもには努力したときにほめる」

また、島九段は子育てについて、「勝った時にほめると、子どもは成功しなければいけないとプレッシャーになる。努力した時、頑張った時にほめるのが大事」と話すと、会場にいた父母らは大きくうなずいていた。

2時間目は、中村修九段夫人でフリーアナウンサーの雅子さんが、編集手帳を「日本語のお手本」と紹介し、参加者と一緒に朗読し

た。「新聞を熟読すれば、国語力も将棋もどんどん強くなりますよ」と話した。

## 参加者には修了証授与

授業後、島九段から参加者一人ひとりに修了証が手渡された。

この後、島九段と飯塚祐紀七段が、子どもたちと一局ずつ対局を行い、実践形式で好手や疑問手などを挙げてアドバイスした。

郡山市から参加した小学生6年の男の子(12)は、「停滞期の乗り越え方を聞くことができて励まされた。新聞を切り抜いて勉強しているので、続けていきたい」と話していた。



## 将棋と新聞の魅力



## 個性光る新聞作り 夏休み親子新聞教室

新聞を切り貼りして、自分だけの新聞を作る「夏休み親子新聞教室」が8月1日、東京・大手町のよみうり大手町ホールで開かれ、1都7県からきた68組約170人の親子らが新聞作りを楽しんだ。

2008年のスタートから毎年行われている、読売新聞東京本社主催の取り組みで、学習指導要領改訂に合わせて、小中学校の教科書には、新聞活用単元が増えているためか、今年は募集70組に166組と、2倍以上の応募が殺到する人気ぶりだった。参加した子どもたちは4歳児から中学2年生で、夏休みを利用して海外の日本人学校から参加した小学生も。また、「4年連続で応募して、ようやく今回当選できた」と、初めての新聞教室に感無量の様子の中学1年生と母親も。

冒頭、鹿野川喜代美・本社NIE企画デザイナーが、新聞を楽しんで読むコツをアドバイス。さらに千葉市立鶴沢小の高橋庸介教諭、東京都北区立滝野川小の石井百合子教諭、埼玉県川越市立初雁中の高橋由香里教諭が、日頃行っている新聞を活用した授業や子どもたちの作品を紹介した後、子どもたちは早速、読売新聞や読売KODO MO新聞、読売中高生新聞をめぐって記事選びを始めた。

### 充実した親と子の対話

子どもたちがとり上げたのは、戦後70年に関連した玉音放送やギリシヤの債務危機問題、世界遺産、自然保護などさまざま



8組の親子が自作の新聞を発表した。左は鹿野川・本社NIE企画デザイナー

ま。それぞれが気になる記事や写真などを切り抜き、レイアウトを工夫しながら、オリジナルの新聞作りに励んだ。

鹿野川さんと教諭3人が会場内を回ってアドバイスをした後、最後は8組の親子が壇上に上り、それぞれの作品を紹介、参加者は真剣な表情で聞き入っていた。

今回の体験を通じて、子どもからは「自分で考えて作るのが

楽しかった」などの声が挙がり、親からは「こんな硬派な話を娘としたのは初めて。楽しい時間でした」「息子が自分でテーマを決めてどんどん作品を仕上げているのが頼もしかった」など、子どもとの時間を喜ぶ親や祖父母の声が多く聞かれた。

（夏休み親子新聞教室の詳細は8月26日付の朝刊に掲載されました）



作品づくりは気に入った記事の切り抜きから始まる。親子の会話ははずんだ



UBCキャンパスで(本人提供)

## 海外で学ぶ・リレーエッセー⑧ 加ブリティッシュコロンビア大学 「未来のエンジニアたちの絆」

加藤学園暁秀高校(静岡県沼津市)卒、加ブリティッシュコロンビア大学2年

杖本 遥 さん



ある先輩がこう言った。4万人の学生の5分の1を占める149の国々の留学生在がいるブリティッシュコロンビア大学(UBC・カナダ・バンクーバー)では、人生を変えるような出来事が4年間で起こったり、一生の友達ができたりするかもしれない。

実にその先輩の言っていたことは確かなものであった。わたしは仲間意識を持てる「8人の輪」に自然と溶け込んでいた。これこそ自分が長年探していたものだった。毎週こなさなければならぬ宿題や試験に圧倒されそうになったとき、いつも助けを求めることが出来るのがこの輪だった。

2014年8月末、新入留生のために行われた2週間の「ジャンプ・スタート・プログラム」で8人の仲間と出会った。そして8人の輪は期間中に生まれた。みな工学部の学生だから、それほどの抵抗もなくまとまった。結びついたのは本当に偶然だ。ドバイ、香港、インド、パキスタン、ロシア、スイス、シリアそして日本からのユニークな留生たちが一つの輪になったことに今でも驚いている。

我々はみな母国以外の国で数年間を過ごした経験があるから、違う文化や価値を共有し尊重できた。例えば、母国同士は長年張り合っている、パキスタンとインドの出身者が母国の宇宙開発の進捗状況の違いについてさえ、ジョークを言い合っている。我々は、いつでもひやかし合えるほど仲がいいのだ。

我々は一生懸命に勉強するし、助け合う。わたしは化学を教える一方、パキスタンとロシアの友人からは、数学、コンピュータ・プログラミングを教えてもらうことができる。みなそれぞれ自分の得意分野で仲間に教えあう。

遊びについても真剣だ。パイ週間、と呼ばれる工学部生のみの特別な一週間が学期始めにあ

り、この間はだれもが友達や教授たちの顔にパイを慈善で投げることができる。パイを一つ買えば教授の顔に投げつけることができる。このパイがなかなか固くて、当たると痛いのだが、わたしも8人の輪と一緒に教授や友達に投げつけた。工学系の学生生活は勉学的にはタフだが、仲間が一人で耐えることを許してくれない。歯車はひとつでは動かない。つまり、一緒に初めて重要な作用を果たすことができるのだ。UBCでわたしはそれを見つけることができた。

(会報編集部抄訳「The Japan News」2015年3月26日)

### ブリティッシュコロンビア大学

1908年創立。カナダの大学で最も評価の高い大学のひとつとされている。全日制、夜間、通信教育の12学部がある。

海外留学を目指す高校生に進学支援を行っているNPO法人「留学フェロウシップ」のメンバーが、海外のキャンパスライフをリレー連載します。留学フェロウシップの詳細はウェブサイト(<http://ryu-fellow.org>)へ。

# The Japan News

by The Yomiuri Shimbun

9/1 Tue - 7 Mon

## デジタル紙面 無料読み放題

読売新聞が発行している日刊英字紙「The Japan News」(ジャパン・ニュース)は、9月1日から7日までの紙面で「デジタル紙面 無料読み放題」を実施します。  
9月1日から10日までの公開期間中、ジャパン・ニュースのデジタル紙面を、なんと全ページ無料で公開します!

デジタル紙面を見るには、個人情報の登録などは一切不要。ジャパン・ニュースのニュースサイト(<http://the-japan-news.com>)にある"ALL YOU CAN READ!"と書かれたバナーをクリックするだけ。または、<http://jn-digital.the-japan-news.com>にアクセスすると、お手元のパソコンやタブレット端末、スマートフォンで、その日の実際の紙面と同じ内容のデジタル紙面(PDF、約9メガバイト)を、どこでも気軽に好きなだけ読んでいただくことができます。

そんなジャパン・ニュース体験で、「英字新聞って面白いかも」と感じた方には、お電話1本で7日間、ご自宅やオフィスに紙面をお届けする「無料試し読み」がおすすめ。今、無料試し読みをお申し込みになると、最新版の小冊子「英字新聞の読み方早わかりガイド」=写真=を無料で進呈します。

お申し込みはフリーダイヤル

 **0120-431-159**



編集部から英字紙を楽しむための5か条!

1. 全部読まなくてOKなワザ
2. 見出しが5分ニュースも読解しやす
3. 曜日ごとの見出し
4. Mission possible! 勇気を出して読む
5. 検索が便利! 読解への早道あり



パソコン、  
タブレット、  
紙でもどうぞ!



さらに、9月中に新規で購読をお申し込みいただいた方には、ジャパン・ニュース編集部から「デジタルの贈りもの」を希望者全員にプレゼント致します。

- 1 ジャパン・ニュースオリジナル英語和食レシピ集  
「Recipe」(PDFファイル)
- 2 日頃はなかなか気づかない身近な社会の小さな変化を、レンズを通して切り取った写真集  
「Uncovering JAPAN」vol.2 (9月発売、電子書籍)

※ご購入申し込み後、[jn-readers@yomiuri.com](mailto:jn-readers@yomiuri.com)へ、ご希望のタイトル名と住所、氏名を明記し、件名をgiftとしてメールをお送りください。 ※②は技術的な理由から、米国Amazon.comのアカウントをお持ちの方に限らせていただきます。ご了承下さい。

また、読売新聞社と、米国を代表する日刊紙「ワシントン・ポスト」紙とのデジタル・パートナー事業は、1年間の延長が決定しました。ジャパン・ニュースを購読すると、「ワシントン・ポスト」デジタル版を1年間、無料・無制限でお楽しみいただけます。既にご購読中の方もご利用いただけます。

デジタル紙面 無料読み放題については、特設サイトをご覧ください

<http://jn-digital.the-japan-news.com>